

立川市緑の基本計画に係る アンケート調査結果



目 次

1	調査概要	2
2	回答者の属性	4
3	立川市内の緑について	7
4	お住まいの地域の公園について	13
5	今後の緑の保全と創出について	22
6	調査結果のまとめ	33



1 調査概要



1 調査概要

目的	「立川市緑の基本計画」を改定するにあたり、立川市内の緑、お住まいの地域の公園、今後の緑の保全・創出について、市民の意見や意向を把握する	
調査対象	立川市に住民票を有する平成30年（2018年）8月15日現在で満18歳以上の男女2,000人	
抽出方法	無作為抽出	
調査期間	平成30年（2018年）9月5日（調査票発送）～9月30日（回答締切）※11月20日到着分まで集計	
回収結果	有効回収数 663件 ・ 有効回収率 33.2%	
調査項目	■ 回答者の属性 性別、年齢、居住年数 お住まいの地域、お住まいの種類 ■ 立川市内の緑について ・ お住まいの地域の緑の豊かさ ・ 立川市全体の緑の豊かさ ・ 約10年前と比較した立川市全体の緑の量 ■ お住まいの地域の公園 ・ 公園の利用頻度 ・ 利用内容 ・ よく利用する公園 ・ よく利用する公園の良いところ ・ お住まいの地域の公園の不満 ■ 今後の緑の保全と創出について ・ 緑に期待する役割 ・ 次世代に引き継いでいきたい緑や水辺 ・ 今後立川市内に増えてほしい緑 ・ 緑豊かなまちづくりのために自身にできること ・ 緑豊かなまちづくりのために重要視する立川市の取組	

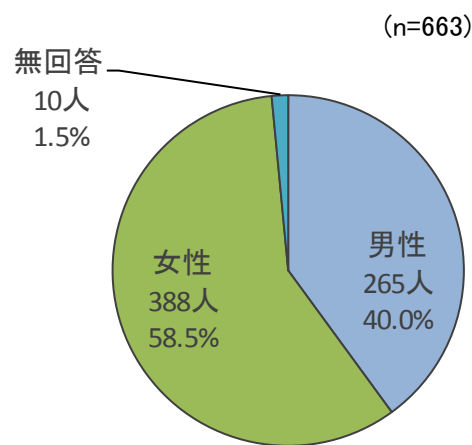
2 回答者の属性



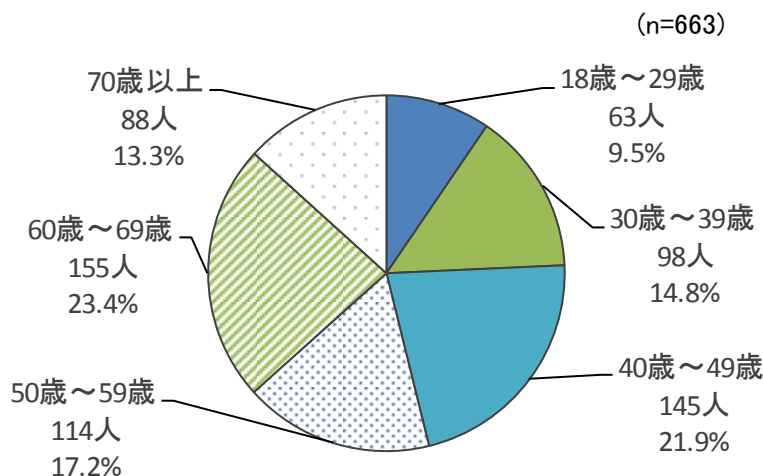
2 回答者の属性

- 男性より女性の回答がやや多い。
- 年齢層は、40代・50代・60代がそれぞれ20%前後で、次いで30代・70代が多い。
- 居住年数は、20年以上が約半数（52.5%）で、次いで10年以上20年未満（23.2%）が多い。

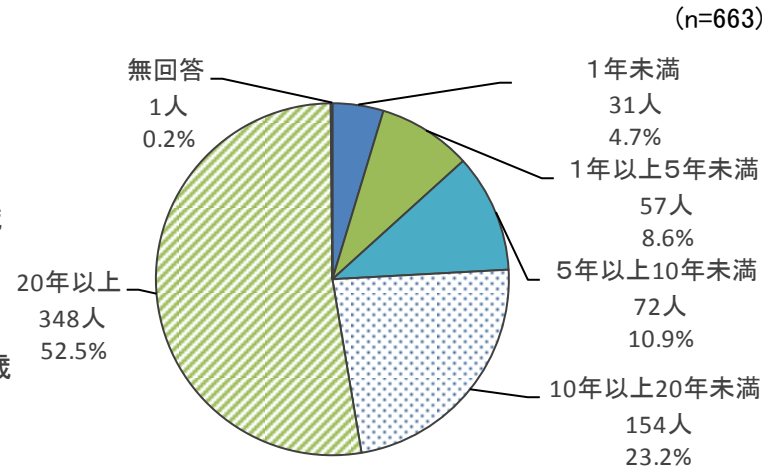
性別



年齢



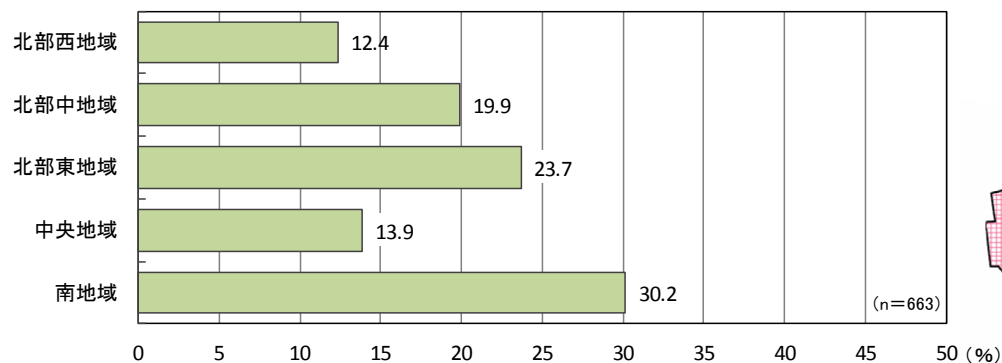
居住年数



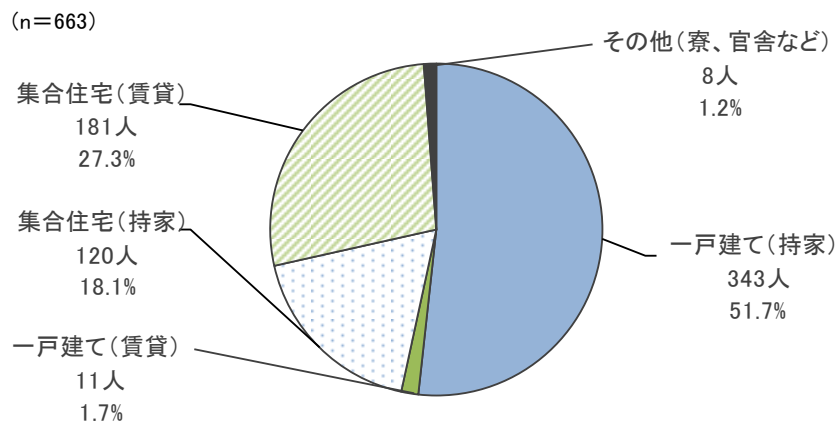
2 回答者の属性

- お住まいの地域は、南地域が最も多く、以下、北部東地域、北部中地域、中央地域、北部西地域の順。
- お住まいの種類は、一戸建て（持家）が約半数で、次いで集合住宅（賃貸）、集合住宅（分譲）が多い。

お住まいの地域

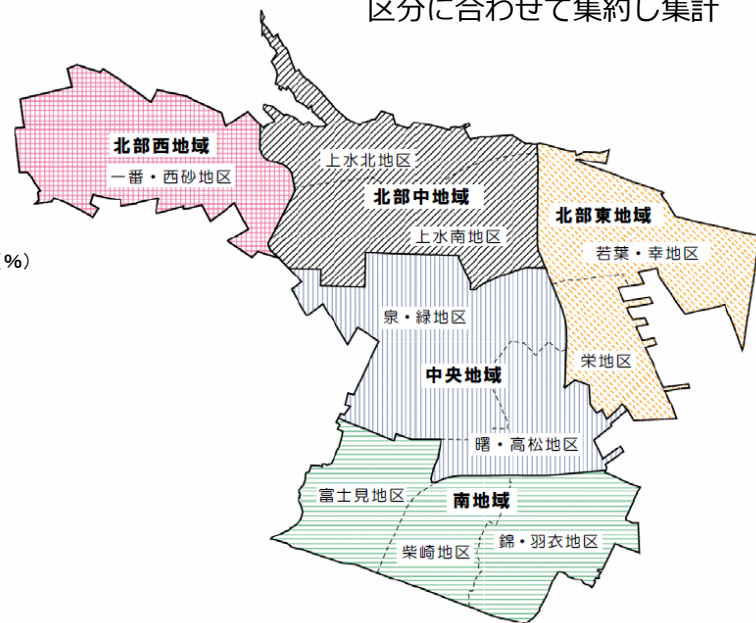


お住まいの種類



【地域区分】

※お住まいの地域は、立川市都市計画マスタープランの地域区分に合わせて集約し集計



3 立川市内の緑について

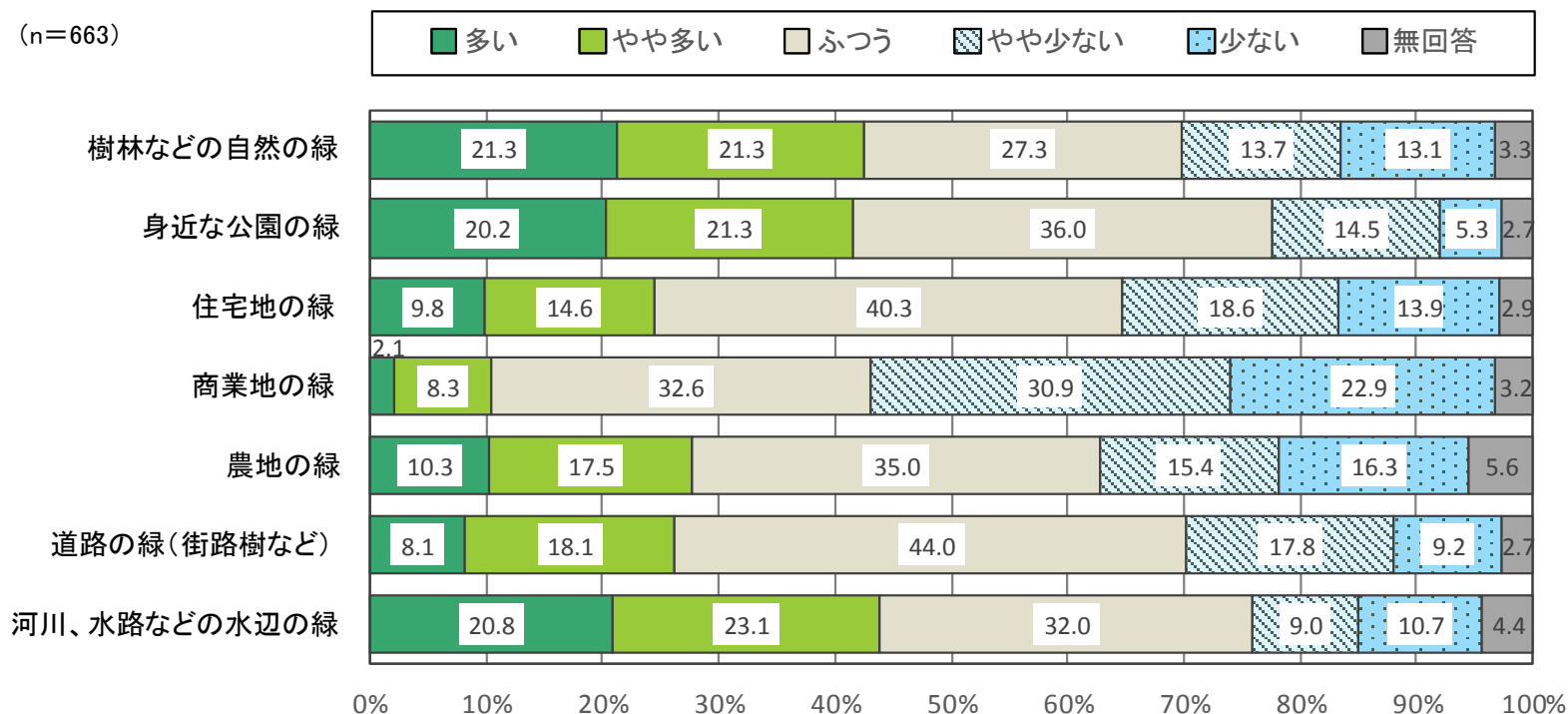


3.1 お住まいの地域の緑の豊かさ（1）

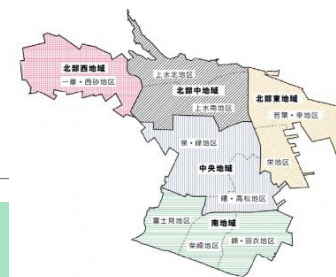
単純集計

- 「多い」と「やや多い」の合計が多い項目は、「河川、水路などの水辺の緑」、「樹林などの自然の緑」、「身近な公園の緑」。
- 「やや少ない」と「少ない」の合計が多い項目は、「商業地の緑」、「農地の緑」、「住宅地の緑」であり、**民有地の緑が少ないと感じられている**。

(n=663)



3.1 お住まいの地域の緑の豊かさ（2）



地域別集計

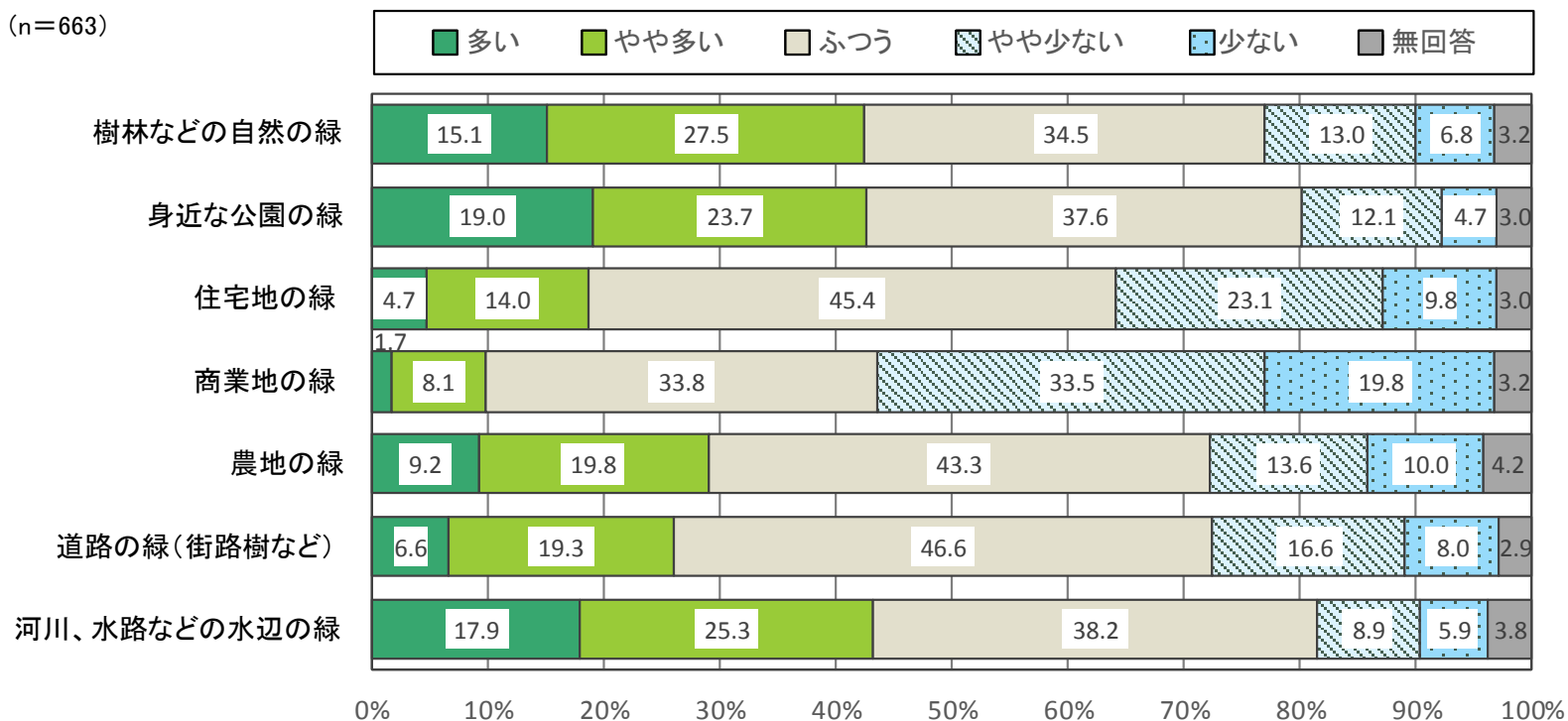
○北部 3 地域は比較的緑が多いと感じられているが、中央地域は緑が少ないと感じられている。また、南地域は、公園や水辺の緑は多いが、自然の緑は少ないと感じられている。

	多い・やや多い の割合が高い	ふつうの割合が高い	やや少ない・少ない の割合が高い
北部西地域	樹林など自然の緑 身近な公園の緑 農地の緑、水辺の緑	住宅地の緑 道路の緑	商業地の緑
北部中地域	樹林など自然の緑 水辺の緑	身近な公園の緑 住宅地の緑 農地の緑、道路の緑	商業地の緑
北部東地域	樹林など自然の緑 身近な公園の緑 農地の緑、水辺の緑	住宅地の緑 道路の緑	商業地の緑
中央地域	身近な公園の緑	道路の緑	樹林など自然の緑 住宅地の緑、商業地の緑 農地の緑、水辺の緑
南地域	身近な公園の緑 水辺の緑	住宅地の緑 道路の緑	樹林など自然の緑 商業地の緑、農地の緑

3.2 立川市全体の緑の豊かさ

- 「多い」と「やや多い」の合計が多い項目は、「河川、水路などの水辺の緑」、「樹林などの自然の緑」、「身近な公園の緑」。
- 「やや少ない」と「少ない」の合計が多い項目は、「商業地の緑」と「住宅地の緑」。
- 年代、居住年数、お住まいの地域による大きな差はみられなかった。

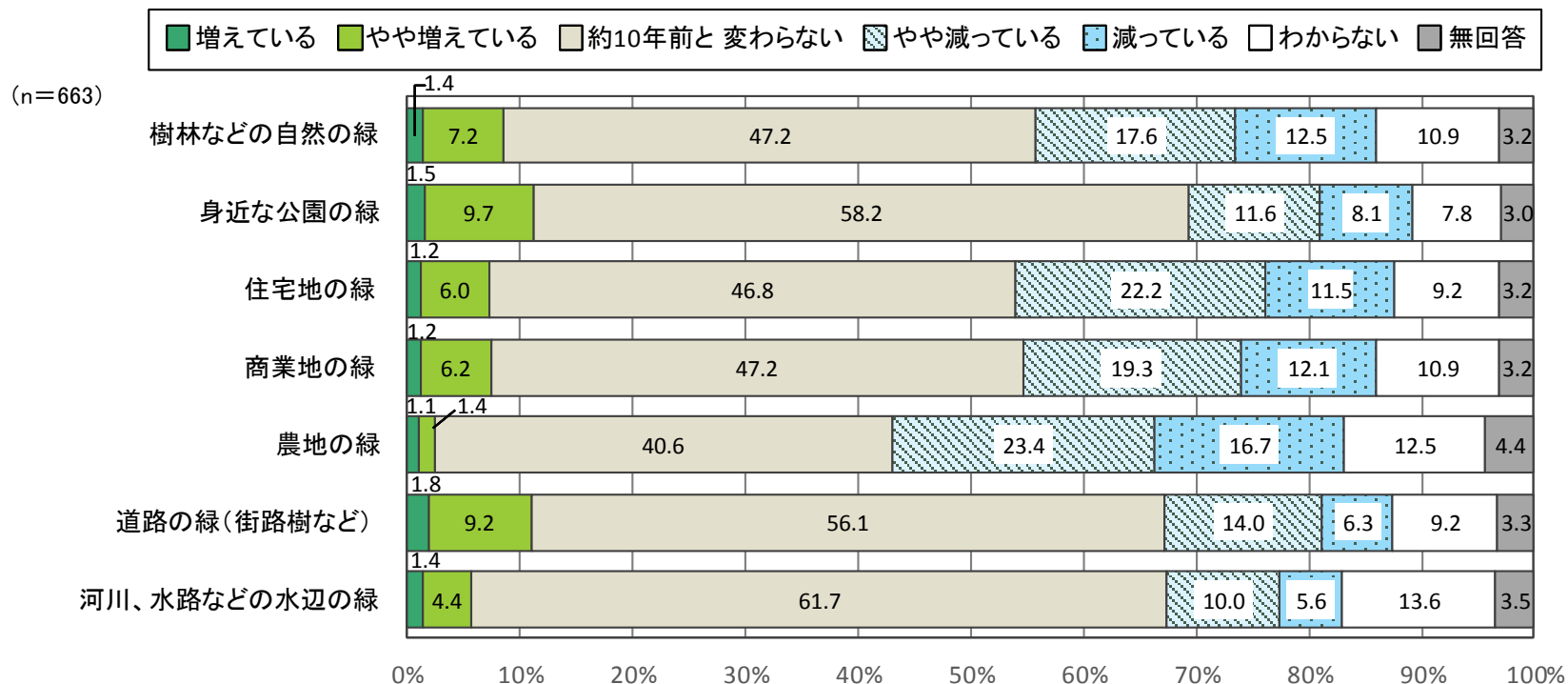
(n=663)



3.3 約10年前と比較した立川市全体の緑の量（1）

単純集計

- すべての項目で「約10年前と変わらない」が最も多い。
- 「増えている」「やや増えている」の合計が、「やや減っている」「減っている」の合計を上回った項目はなく、減っている印象の方が強い。
- 中でも「やや減っている」「減っている」の合計が多いのは「農地」「住宅地の緑」「商業地の緑」「樹林などの自然の緑」。

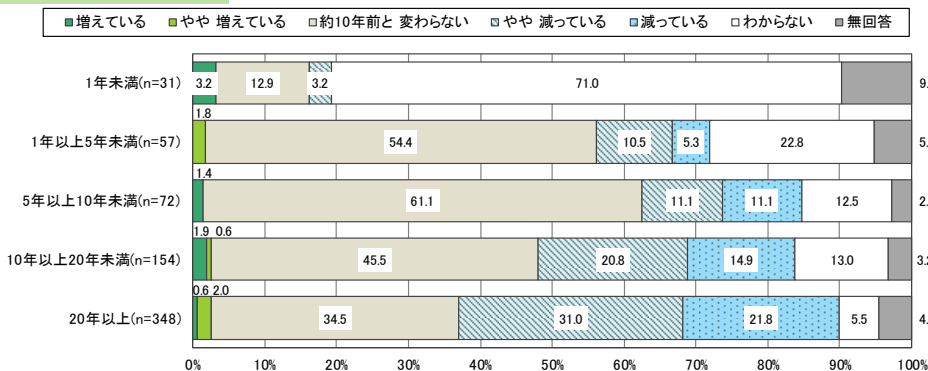


3.3 約10年前と比較した立川市全体の緑の量（2）

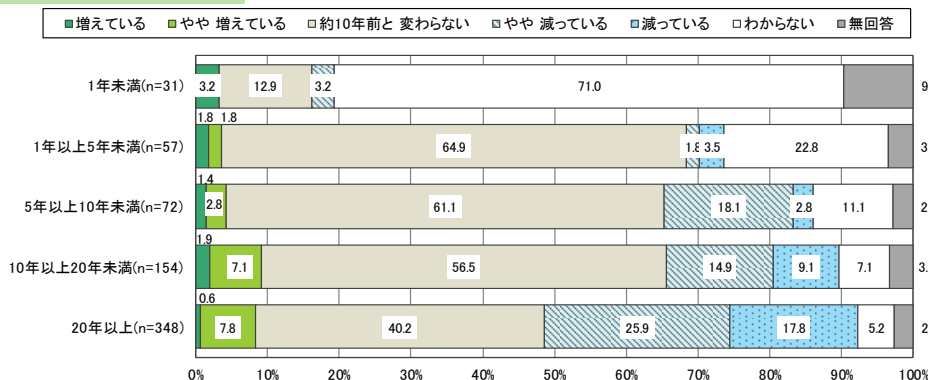
居住年数別集計

○「やや減っている」「減っている」の合計が多い農地、住宅地の緑、商業地の緑、樹林などの自然の緑は、居住年数20年以上の層が特に減少していると感じている。

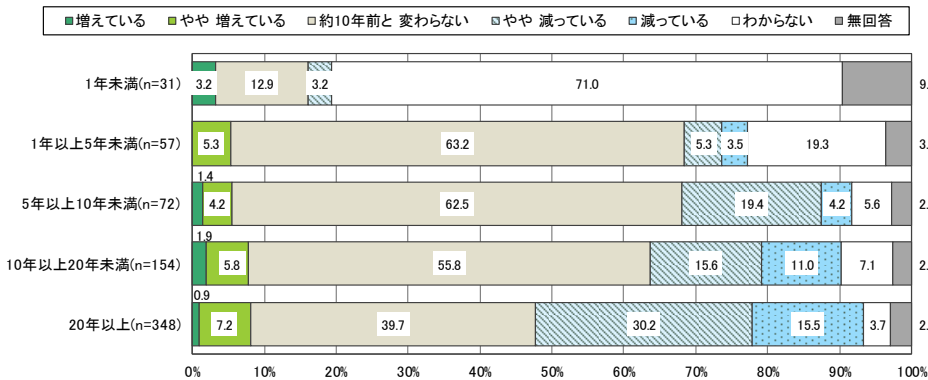
農地の緑



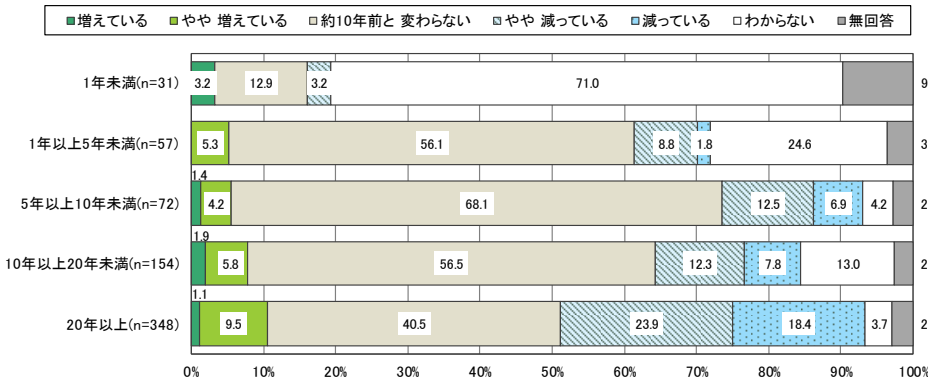
商業地の緑



住宅地の緑



樹林などの自然の緑



4 お住まいの地域の公園 について

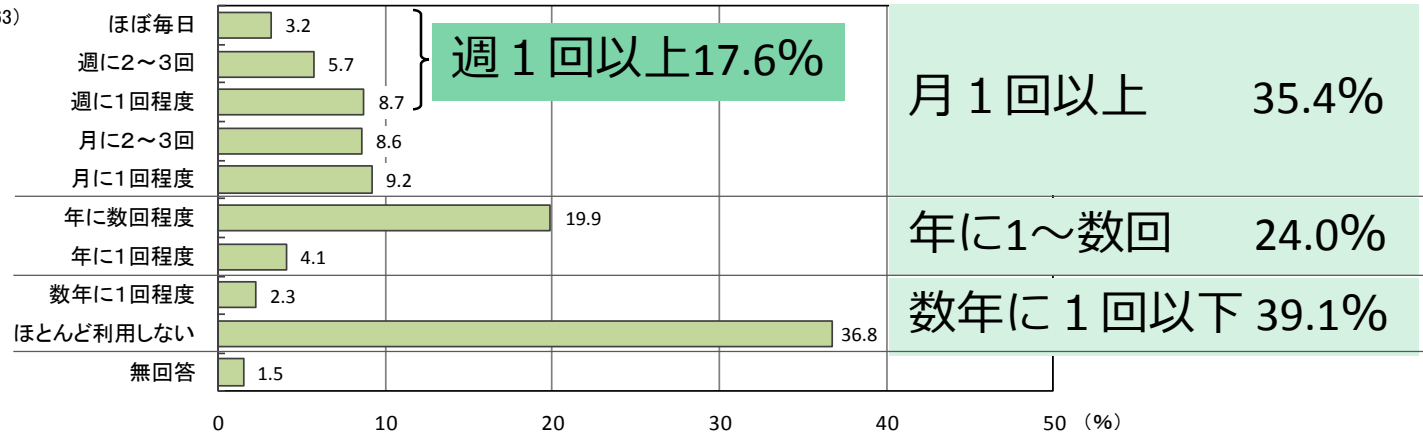


4.1 公園の利用頻度とよく行く公園（1）

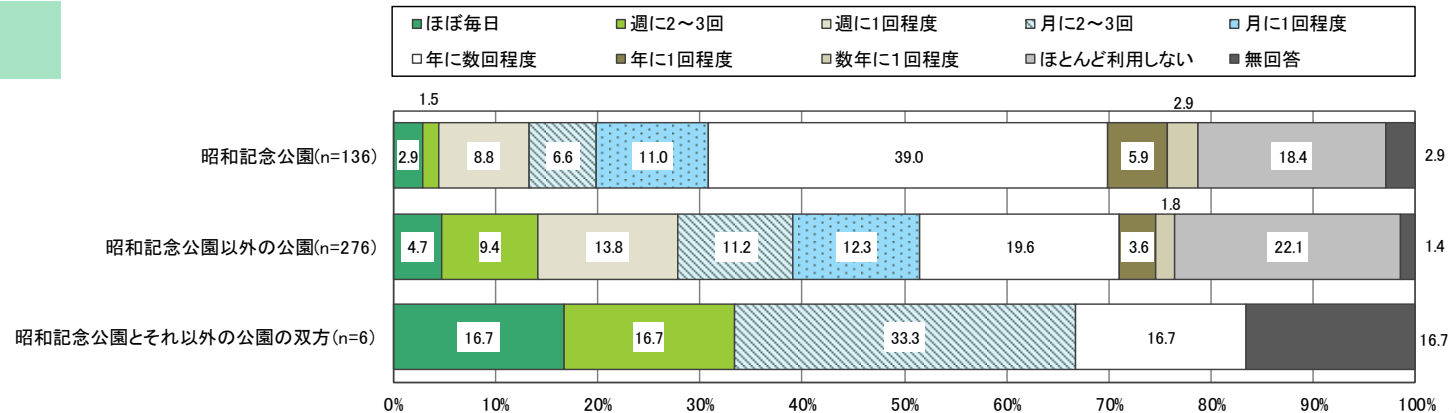
- 約 1 / 3 の回答者が月に 1 回以上公園を利用し、週 1 回以上のヘビーユーザーが17.6%。
- 一方で、数年に 1 回以下という回答が約 4 割。
- よく行く公園別に利用状況を見ると、昭和記念公園以外の公園（以下「身近な公園」という）をよく利用する層は、約 5 割が月に 1 回以上公園を利用。

単純集計

(n=663)



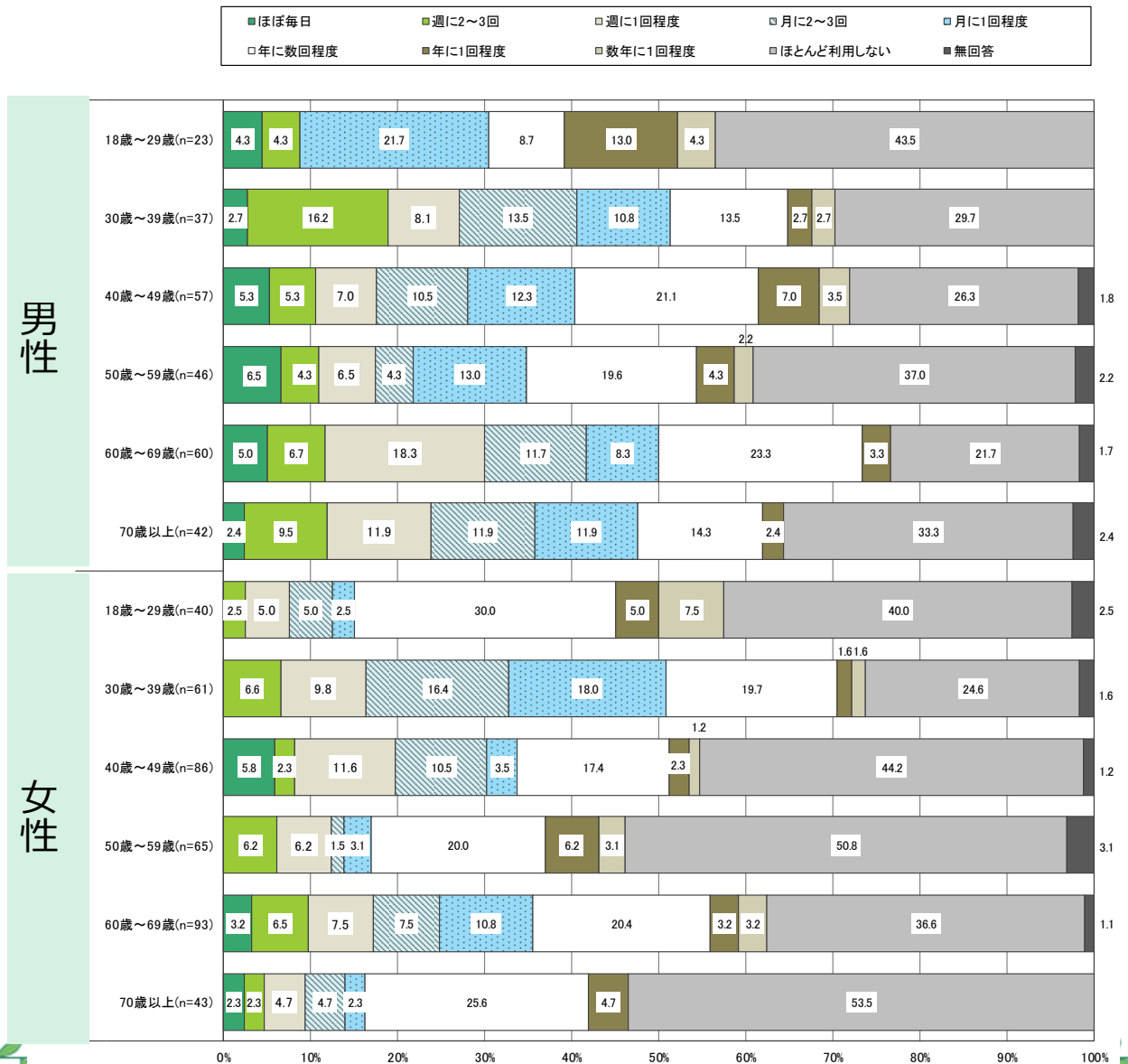
「よく行く公園」別集計



4.2 公園の利用頻度とよく行く公園（2）

性別・年代別集計

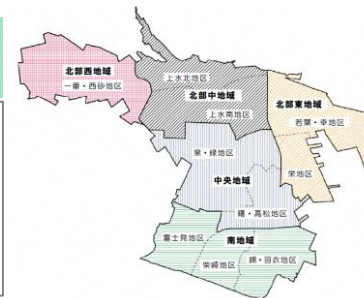
- 月1回以上利用する割合が高いのは、子育て期の「30～40代」と、「60代」。
- 女性は、30代・40代・60代とそれ以外の世代の利用状況の差が大きい。
- 男性は、女性より世代間の差が小さく、全体的に月1回以上利用する割合が女性より高い。



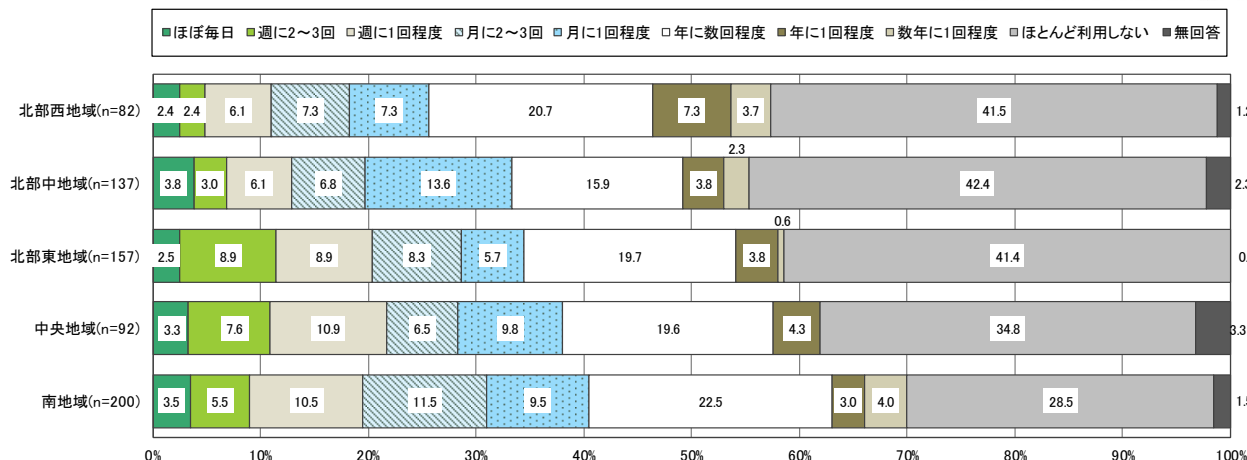
4.1 公園の利用頻度とよく行く公園（3）

地域別集計

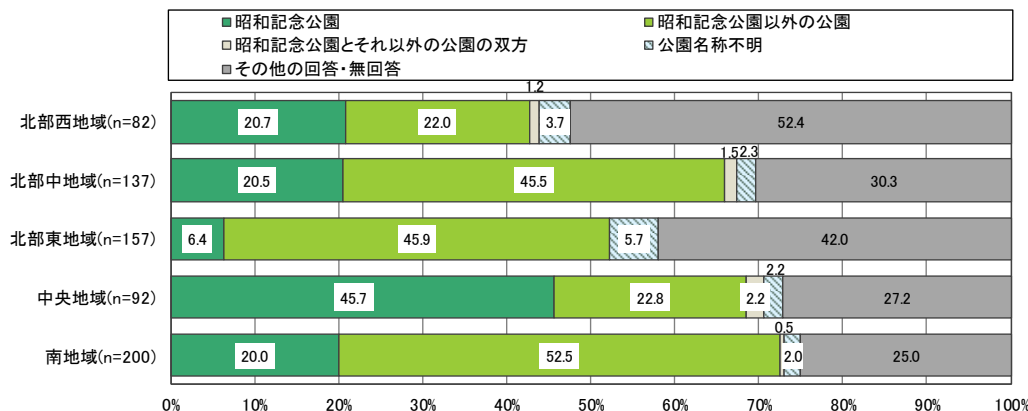
- 公園の利用頻度は「北低・南高」の傾向。
- よく行く公園は、「中央地域」において「昭和記念公園」が突出して高く、それ以外の地域は身近な公園を利用する割合が高い。



公園の利用頻度×地域



よくいく公園×地域

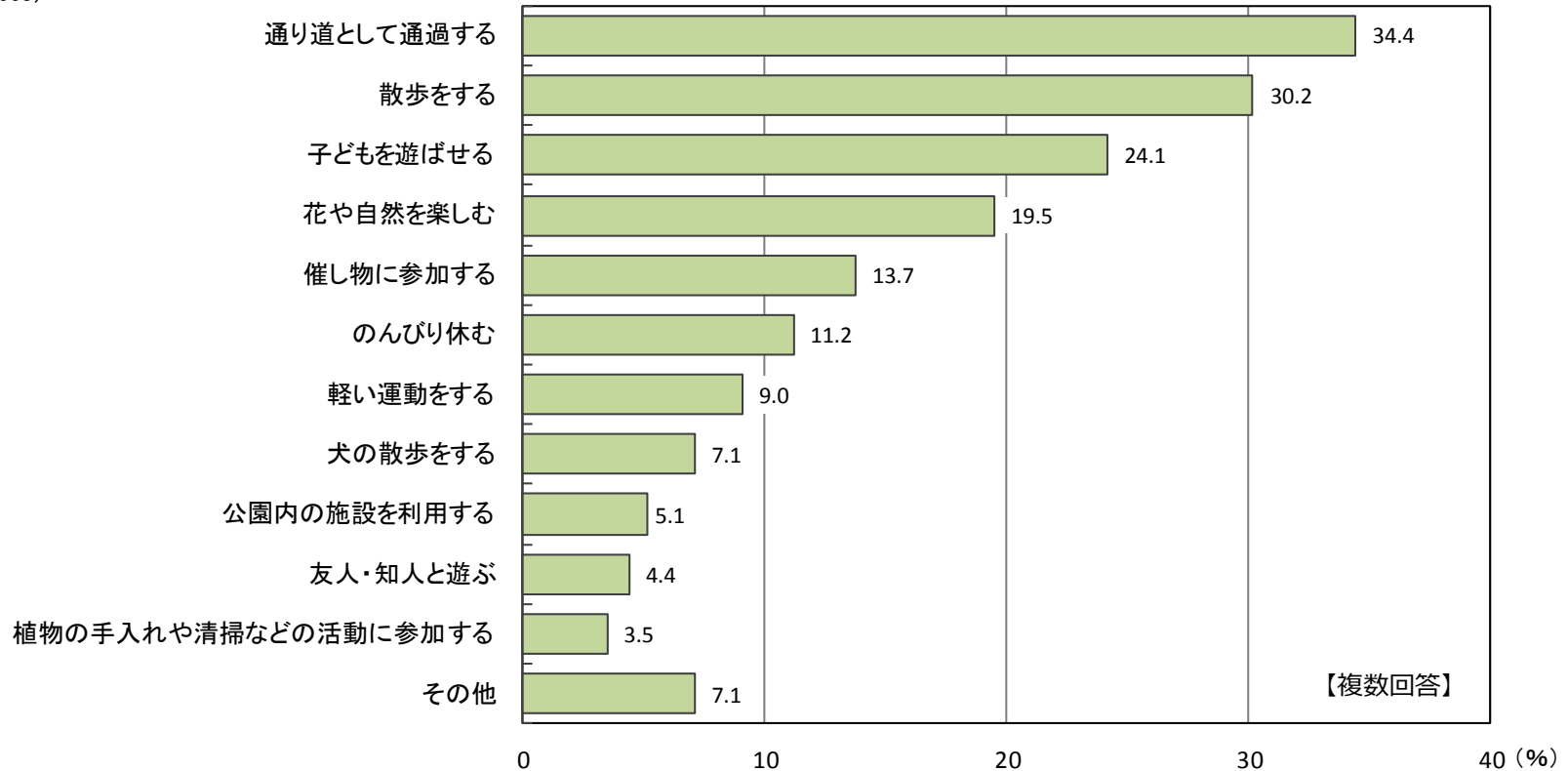


4.2 公園の利用目的（1）

単純集計

- 公園の利用目的（複数回答）のうち、最も多いのが「通り道として通過する」。
- 次いで、「散歩をする」、「子供を遊ばせる」、「花や自然を楽しむ」が多い。

(n=663)



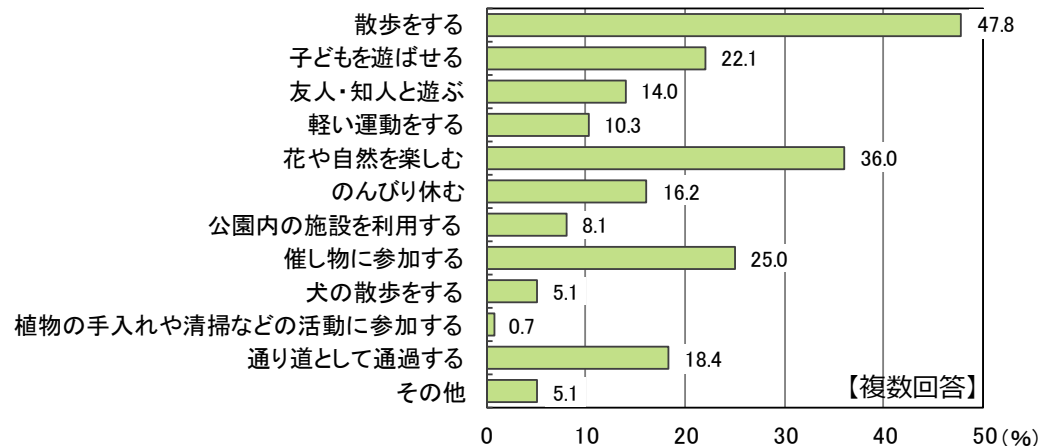
4.2 公園の利用目的（2）

よく行く公園別集計

- 昭和記念公園をよく利用する層は、「散歩」「花や自然」「催し物への参加」を目的に公園を利用。
- 身近な公園をよく利用する層は、「通り道としての通過」が最も多く、次いで「散歩」と「子どもを遊ばせる」を目的に利用しており、昭和記念公園と身近な公園の利用目的は異なっている。

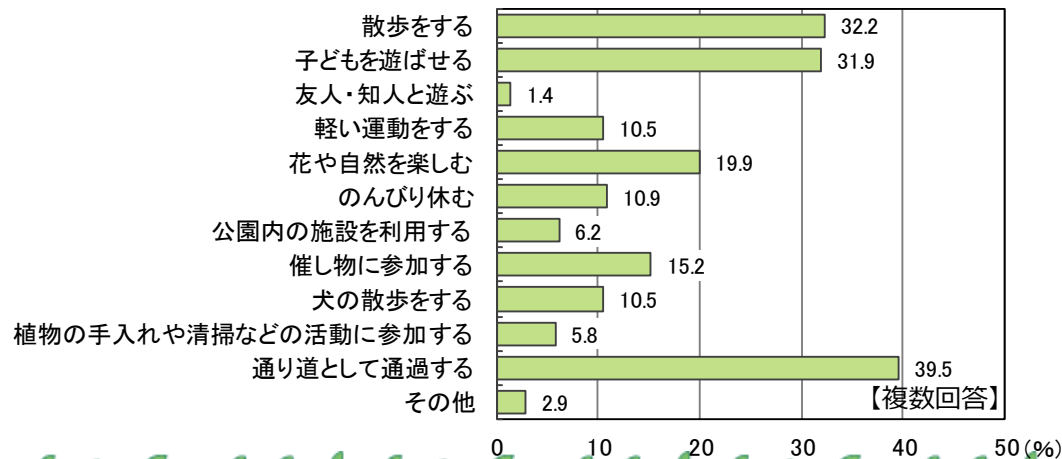
昭和記念公園利用層

昭和記念公園(n=136)



身近な公園利用層

昭和記念公園以外の公園(n=276)

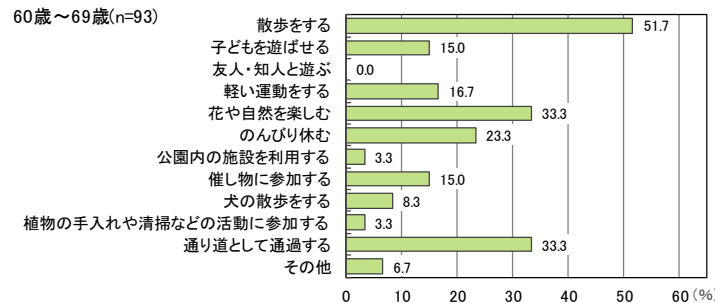
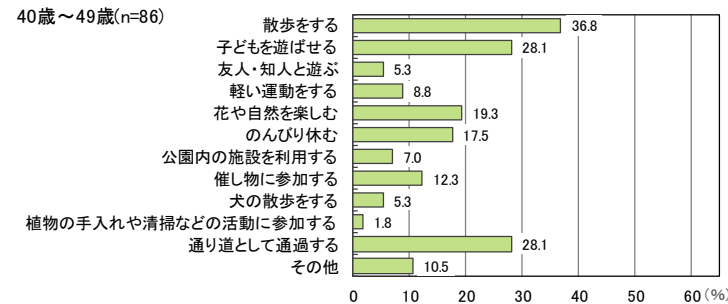
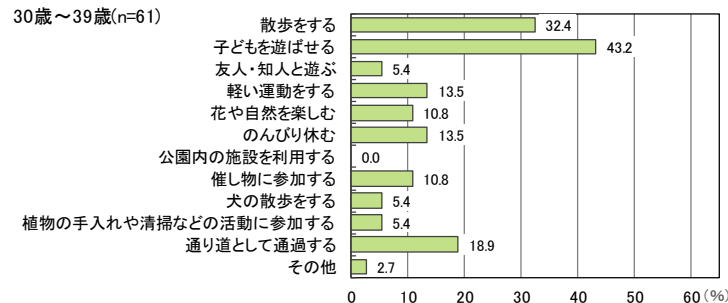


4.2 公園の利用目的（3）

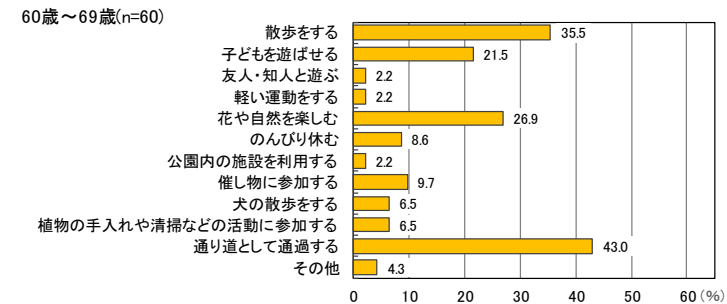
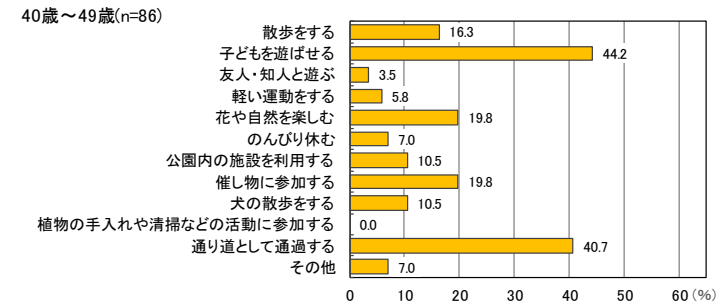
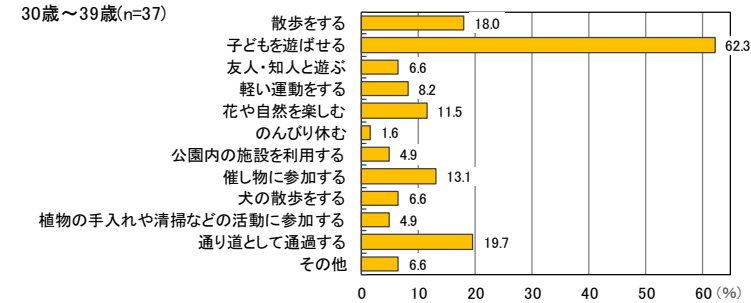
利用頻度が高い世代（30代・40代・60代）の利用目的

○ 公園の利用頻度が比較的高い世代の利用目的を見ると、30～40代は「子どもを遊ばせる」が多く、60代は「散歩」や「花や自然を楽しむ」割合が高い。

男性



女性

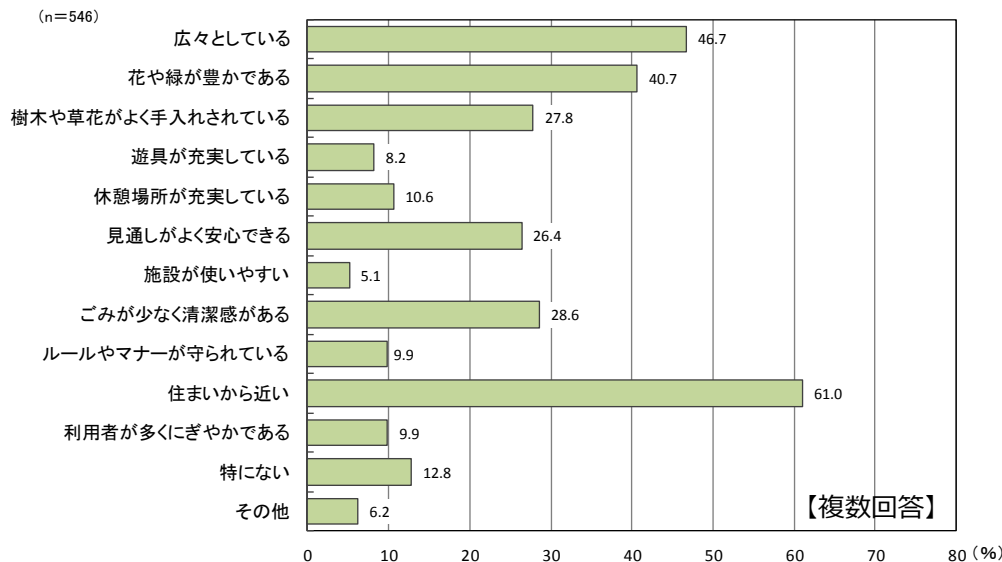


4.3 よく行く公園の良いところ・地域の公園の不満

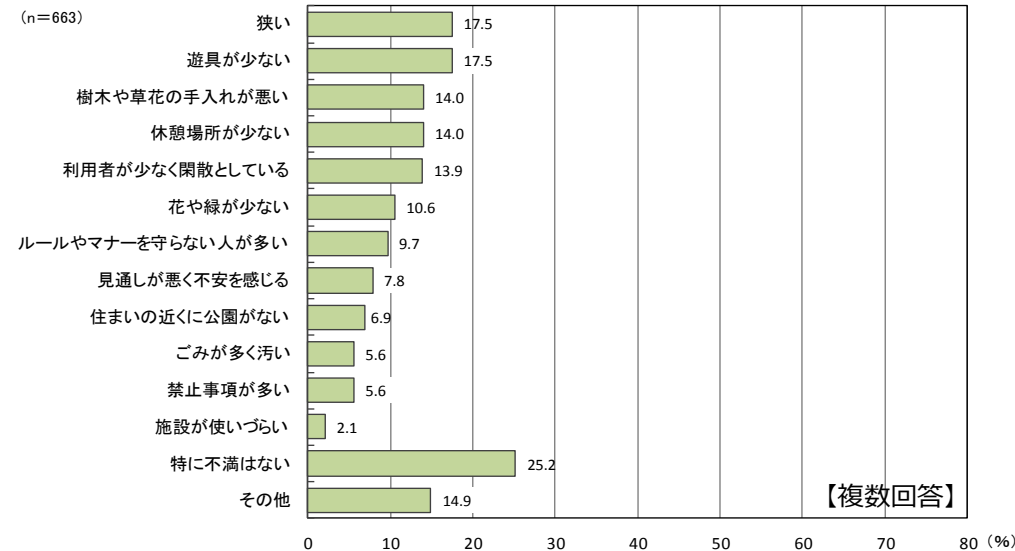
単純集計

- よく行く公園の良いところは、住まいから近いことに加え、広々としており、花や緑が豊かで、清掃や緑の管理が行き届いている点が好まれている。
- お住まいの地域の公園への不満を見ると、「特に不満はない」が最も多い。次いで、「狭い」、「遊具が少ない」、「樹木や草花の手入れが悪い」、「休憩場所が少ない」、「利用者が少なく閑散としている」ことなどが不満の要因として挙げられている。

よく行く公園の良いところ



お住まいの地域の公園への不満



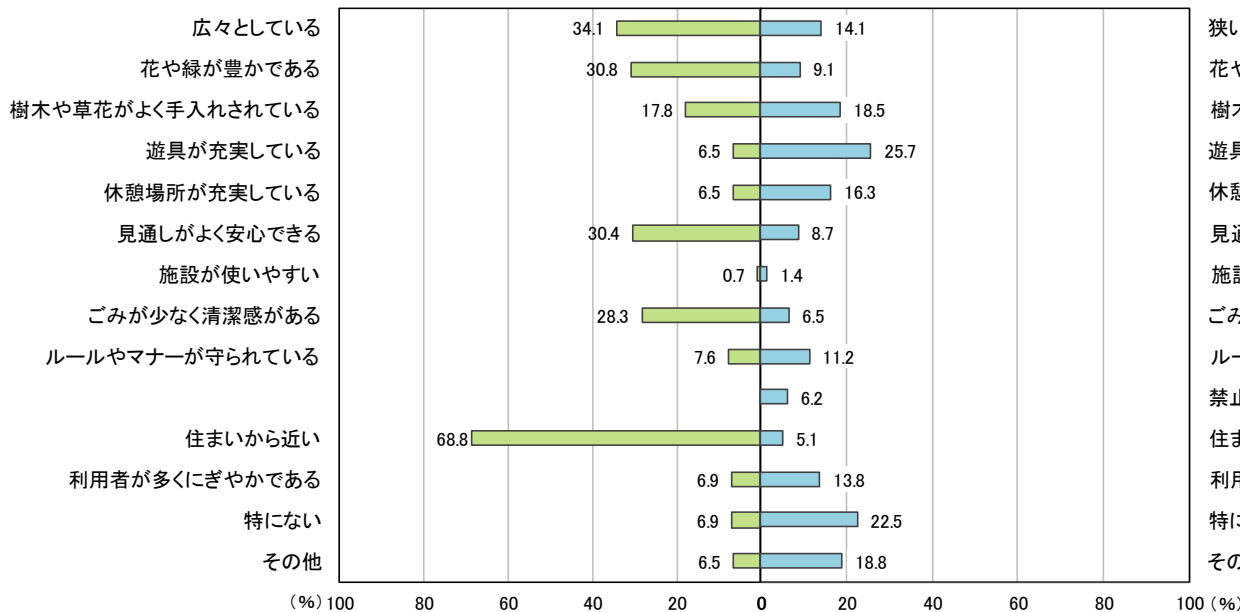
4.3 よく行く公園の良いところ・地域の公園の不満

身近な公園利用者層の意見

- 身近な公園の利用者層についてみると、よく行く公園は「住まいから近い」ことが評価されており、次いで、広々としている、花や緑が豊かである、見通しがよく安心できる、清潔感があることが評価されている。
- これに対し、地域の公園への不満は、遊具や休憩場所が少ない、樹木や草花の手入れが悪い、狭い、狭いことが挙げられている。

よく行く公園の良いところ

昭和記念公園以外の公園利用者(n=276)



お住まいの地域の公園への不満

良いと不満のギャップの大きい項目

プラス評価が優勢

- 住まいからの近さ
- 清潔感
- 広さ
- 見通し
- 花や緑の豊かさ

マイナス評価が優勢 (= 要改善点)

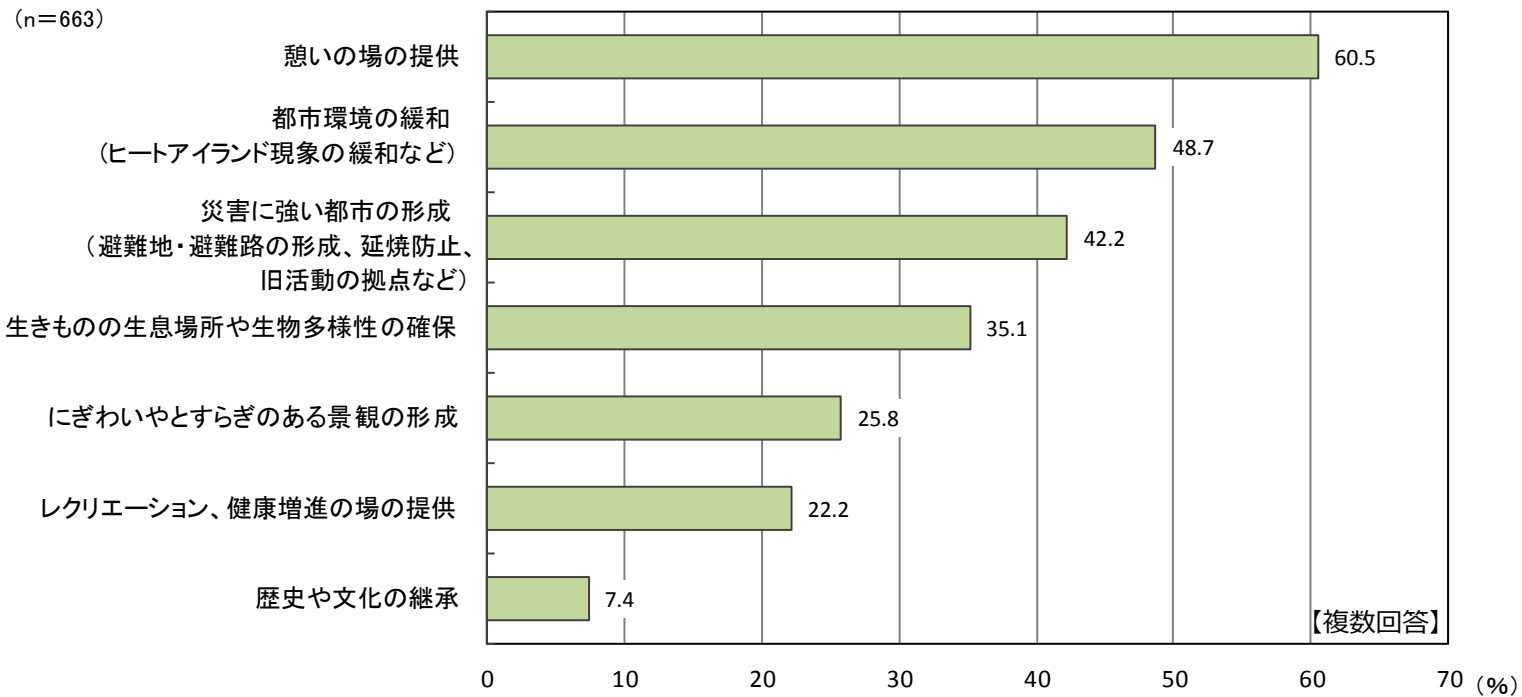
- 遊具
- 休憩場所

5 今後の緑の保全と創出 について



5.1 緑に期待する役割

- 緑に期待する役割は、「憩いの場の提供」が最も多く、次いで「都市環境の緩和」、「災害に強い都市の形成」が多い。
- 年代、居住年数、お住まいの地域による顕著な差はみられなかった。



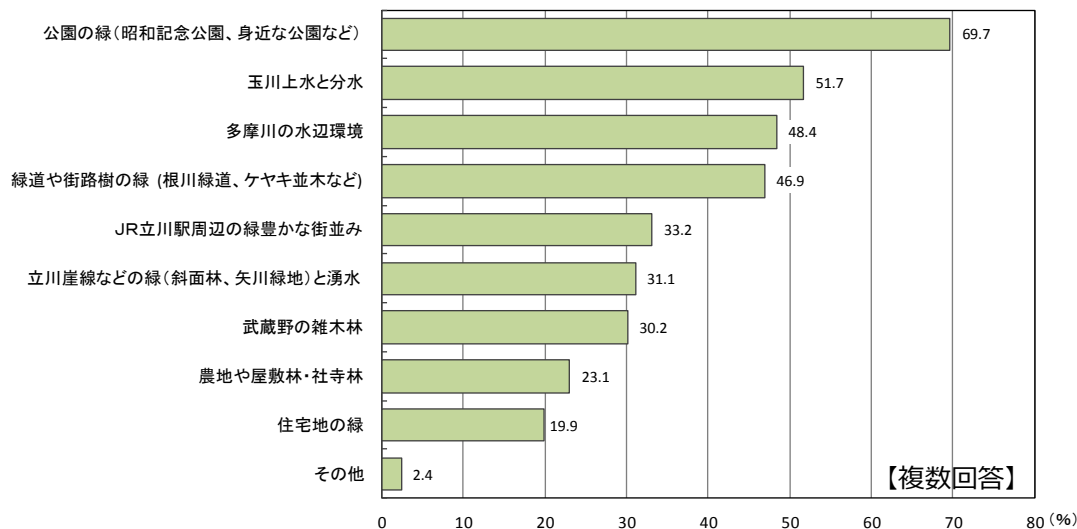
5.2 次世代に引き継ぎたい緑・増えてほしい緑（1）

単純集計

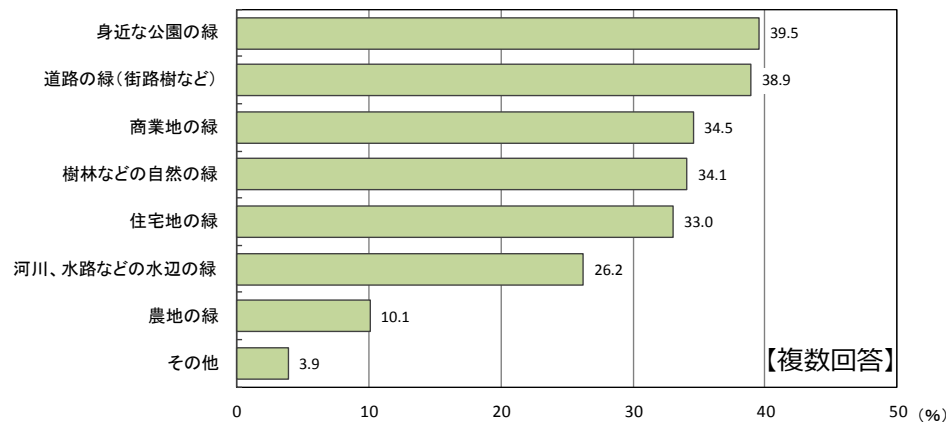
- 次世代に引き継いでいきたい緑は、「公園の緑（国営昭和記念公園、身近な公園など）」の割合が最も高く、次いで「玉川上水と分水」、「多摩川の水辺環境」、「緑道や街路樹の緑（根川緑道、ケヤキ並木など）」が高い。
- 増えてほしい緑は、「身近な公園の緑」、「道路の緑」の割合が高く、次いで「商業地の緑」、「樹林などの自然の緑」、「住宅地の緑」が高く、公共空間や、緑が少ないと感じられている商業地や住宅地に緑が増えることが期待されている。

次世代に引き継いでいきたい立川市内の緑

(n=663)



今後立川市内に増えてほしい緑



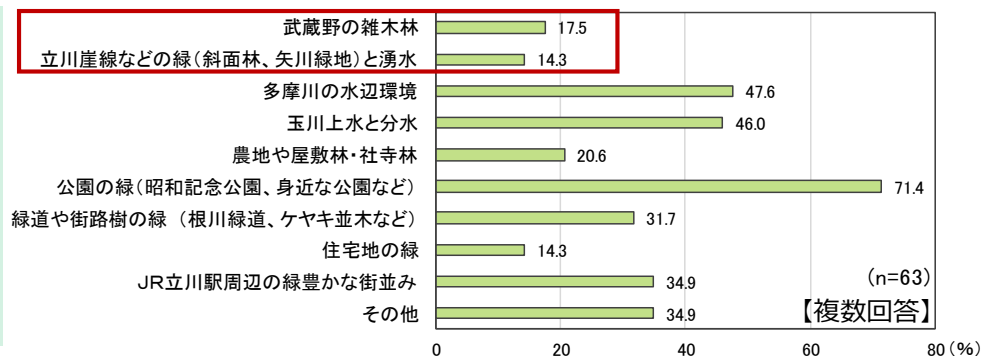
5.2 次世代に引き継ぎたい緑・増えてほしい緑（2）

クロス集計の主なポイント

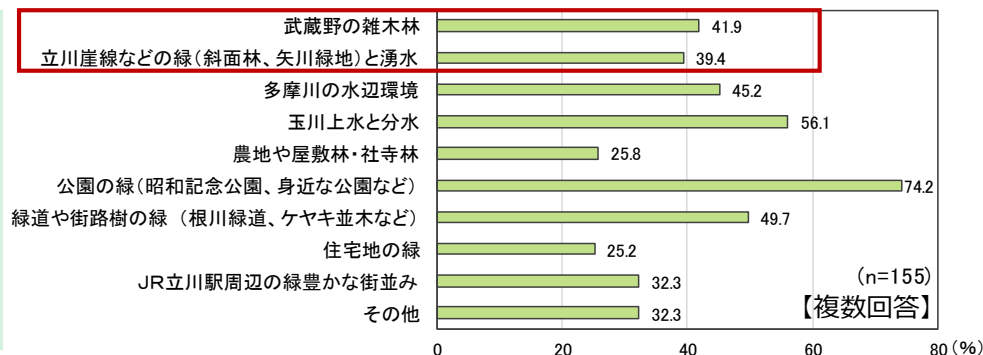
- 次世代に引き継いでいきたい緑は、40代以上の年齢層や、居住年数20年以上の層において「武蔵野の雑木林」「立川崖線などの緑と湧水」の割合が高い。
- 増えてほしい緑についても、40代以上の年齢層や居住年数10年以上の層において、「樹林などの自然の緑」の割合が高く、市街化が進む以前のまちの記憶として雑木林や崖線の緑など、自然が感じられる緑を継承していくことが望まれていると考えられる。

次世代に引き継いでいきたい立川市内の緑

10
〜
20
代

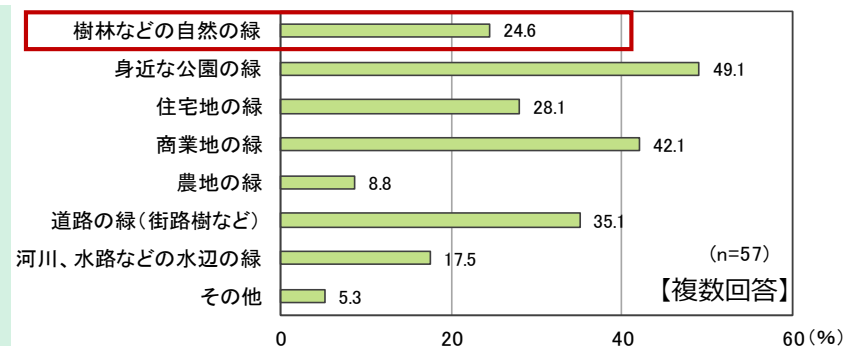


60
代

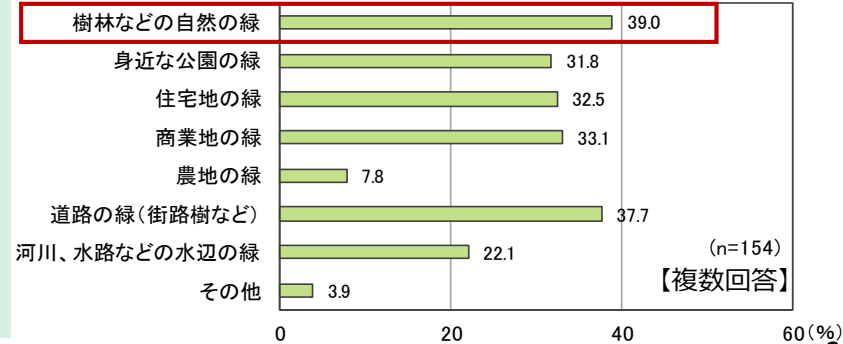


増えてほしい立川市内の緑

1
年
以
上
5
年
未
満



10
年
以
上
20
年
未
満

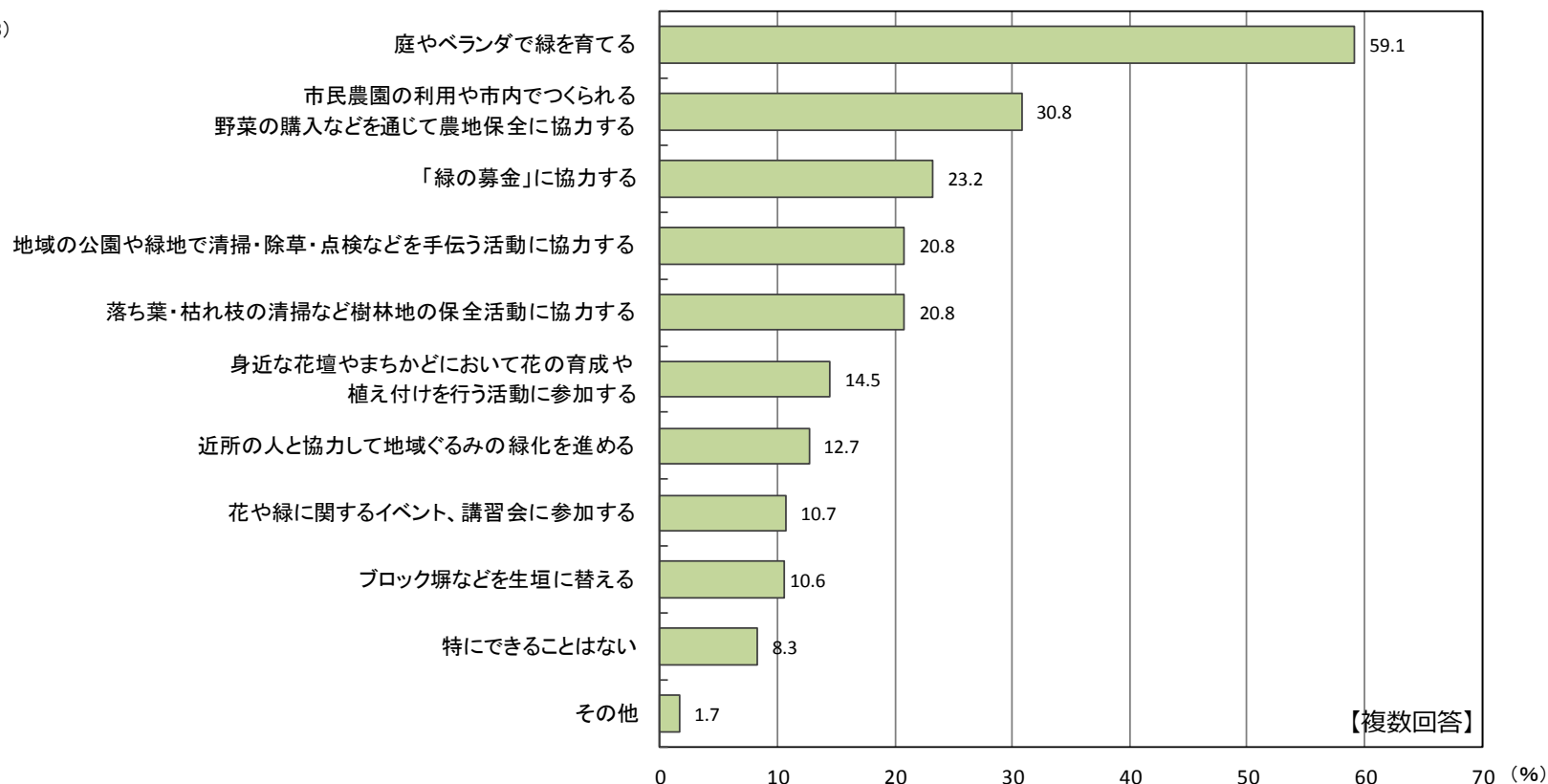


5.3 緑豊かなまちづくりのために自身にできること

単純集計

○緑豊かなまちづくりのために自身にできることとして、「庭やベランダで緑を育てる」の割合が最も高く、次いで「市民農園の利用や市内でつくられる野菜の購入などを通じて農地保全に協力する」が多い。

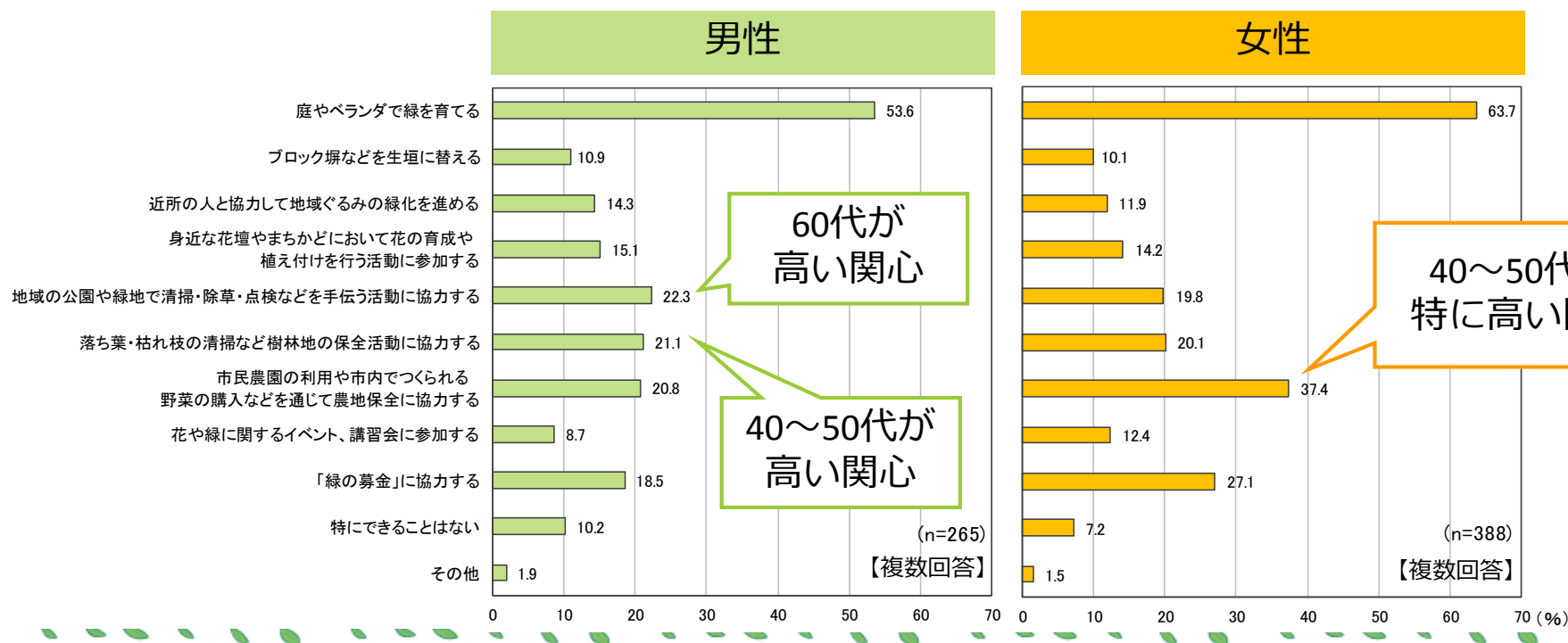
(n=663)



5.3 緑豊かなまちづくりのために自身にできること

年代・性別別集計

- 「庭やベランダで緑を育てる」ことは、年代、性別を問わず、割合が高い。
- 「市民農園の利用や市内でつくられる野菜の購入などを通じて**農地保全に協力する**」は、**女性の関心が男性より高い**。
- 年代・性別による差がみられる点としては、40～50代の女性が「農地保全への協力」に特に高い関心を示している。また、40～50代の男性が「樹林地の保全活動への協力」、60代男性が「公園や緑地での清掃・除草・点検への協力」に高い関心を示している。

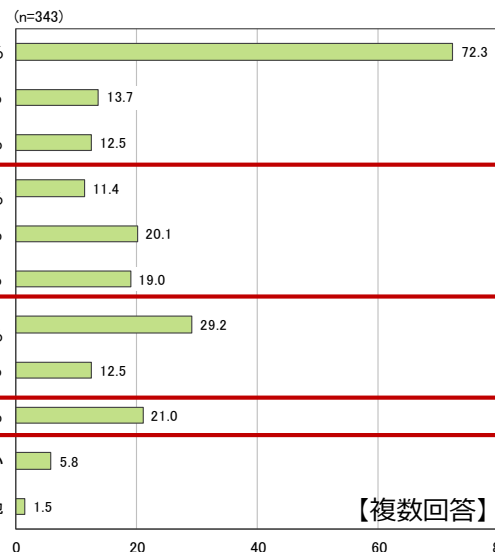


5.3 緑豊かなまちづくりのために自身にできること

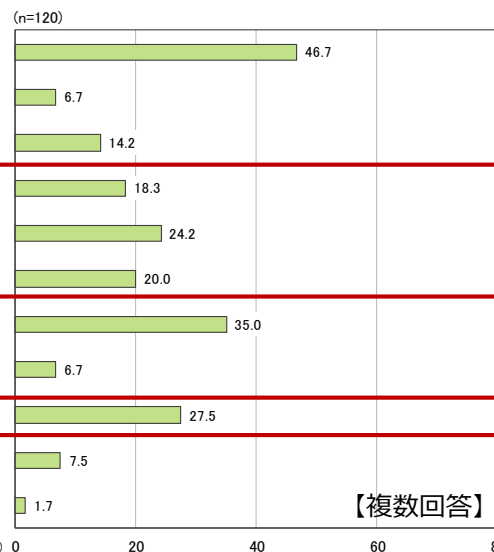
住まいの種類別集計

- 住まいの種類別に関心のある取組を見ると、一戸建て（持家）に居住する層より、集合住宅（持家または賃貸）に居住する層の方が、まちかどなどの花壇、公園、樹林地保全といった地域での活動、「緑の募金への協力」にやや高い関心を示している。

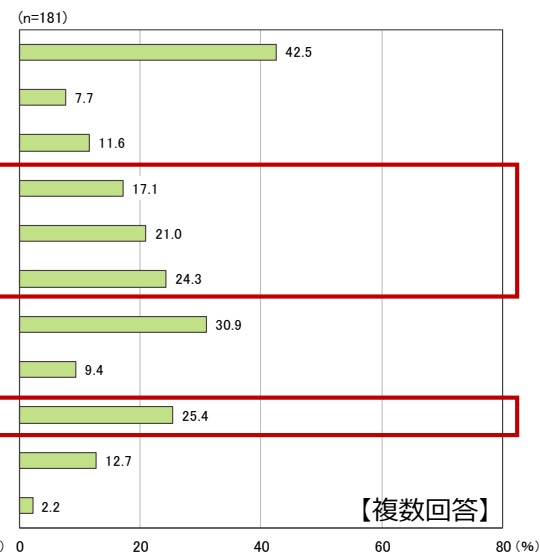
一戸建て（持家）



集合住宅（持家）



集合住宅（賃貸）



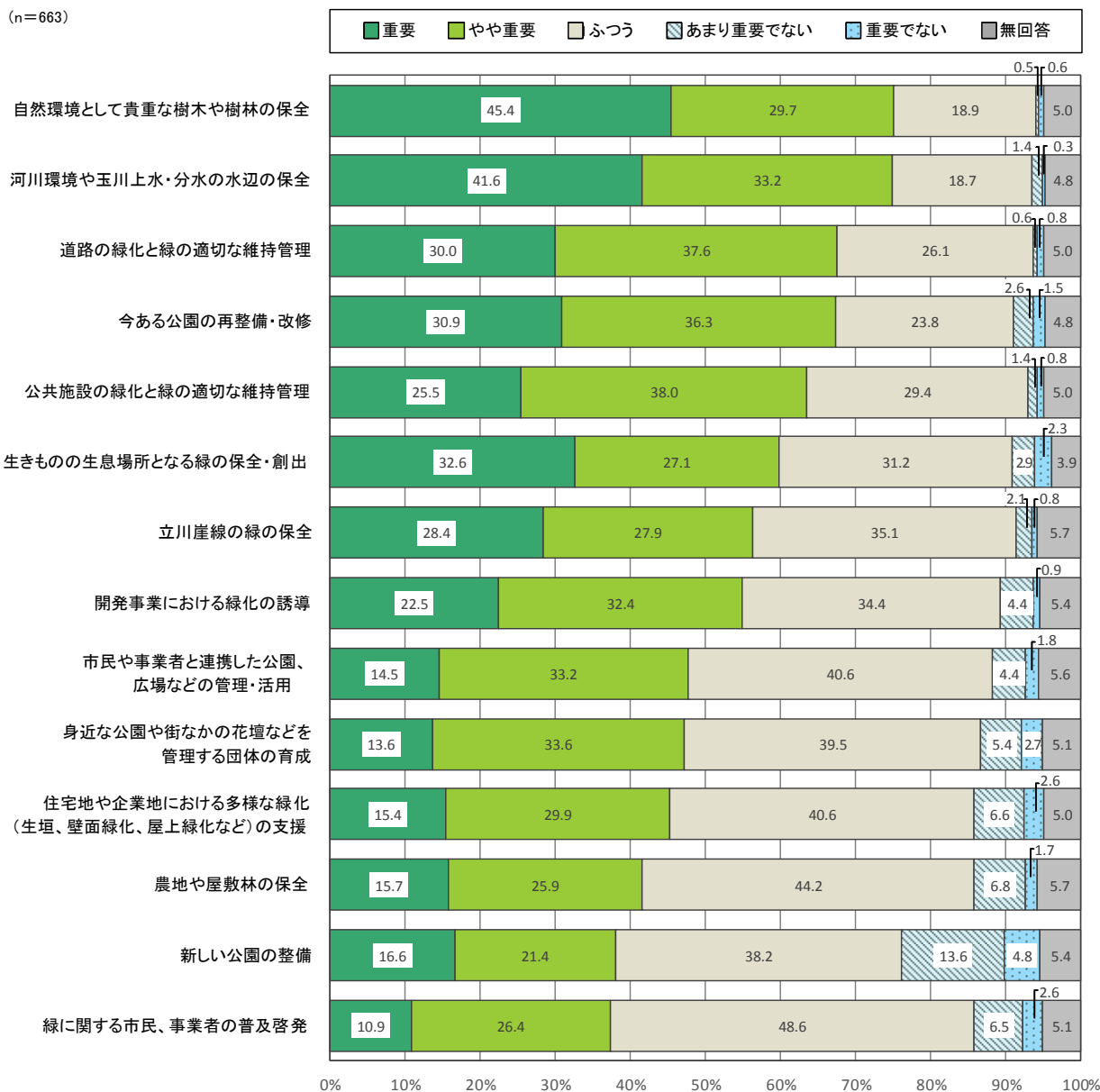
5.4 重要視する立川市の取組（1）

単純集計

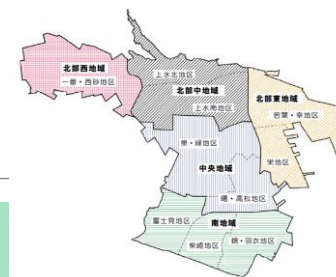
○緑豊かなまちづくりのために重要視する立川市の取組のうち、重要・やや重要を合計した割合が高い取組は、樹林や水辺など自然性の高い緑の保全、道路や公共施設の緑化、公園の再整備・改修である。

○あまり重要でない・重要でないを合計した割合が高い取組は、「新しい公園の整備」である。

(n=663)



5.4 重要視する立川市の取組（2）



地域別集計

- 重要・やや重要を合計した割合が高い取組の上位5項目は、5地域とも共通している。
- 地域による違いがみられる点として、全体的に緑が少ないと感じられている中央地域については、「道路の緑化や緑の適切な維持管理」への期待が他地域より高い。

重要・やや重要を合計した割合が高い上位5項目	各地域における順位				
	北部西地域	北部中地域	北部東地域	中央地域	南地域
自然環境として貴重な樹木や樹林の保全	第2位	第2位	第2位	第2位	第1位
河川環境や玉川上水・分水の水辺の保全	第1位	第1位	第1位	第5位	第2位
道路の緑化と緑の適切な維持管理	第4位	第4位	第4位	第1位	第3位
今ある公園の再整備	第5位	第3位	第3位	第4位	第4位
公共施設の緑化と緑の適切な維持管理	第3位	第5位	第5位	第3位	第5位

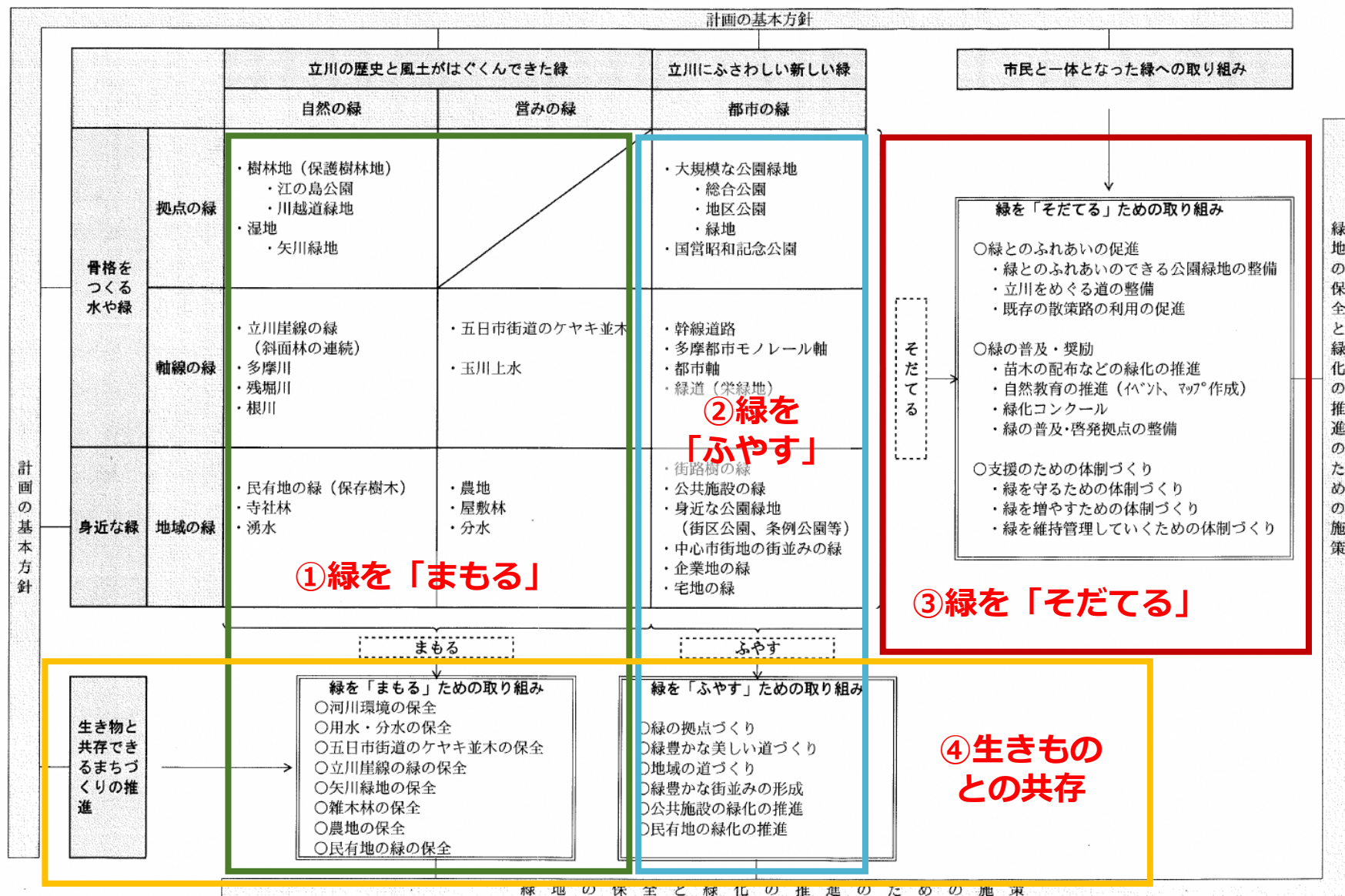
5.4 重要視する立川市の取組（3）

現行計画の施策体系を踏まえた分析

- 緑を「まもる」取組は、骨格となる緑や水辺の保全が重要視され、身近な農地や屋敷林の保全はあまり重要視されていない。
- 緑を「ふやす」取組は、公共空間の緑化が重要視され、民有地の緑化はあまり重要視されていない。また、緑を「そだてる」取組は、全般的にあまり重要視されていない。
- これらを踏まえると、**身近な緑への関心を高め、関わるきっかけをつくっていくことが課題**と考えられる。

現行計画の施策分類	重要視する割合が 相対的に高い 取組	重要視する割合が 相対的に低い 取組
①緑を「まもる」	・自然環境として貴重な樹木や樹林の保全 ・河川環境や玉川上水・分水の水辺の保全 ・立川崖線の保全	・農地や屋敷林の保全
②緑を「ふやす」	・道路の緑化と緑の適切な維持管理 ・今ある公園の再整備 ・公共施設の緑化と緑の適切な維持管理	・開発事業における緑化の誘導 ・住宅地や企業地における多様な緑化の支援 ・新しい公園の整備
③緑を「そだてる」		・市民や事業者と連携した公園・広場などの活用、管理 ・身近な公園や街なかの花壇などを管理する団体の育成 ・緑に関する市民、事業者の普及啓発
④生きものとの共存		

〔参考〕 現行計画の施策体系



5.4 重要視する立川市の取組（４）

- 保全に対する意識に関わる設問では、農地の保全に関する重視度は低いですが、取組への協力意向を尋ねた「緑豊かなまちづくりのために自身ができること」では、「市民農園の利用、市内で作られる野菜の購入等を通じて農地保全に協力する」の割合が高く、農地活用に対する関心は高く、ギャップが生じている。

		保全に対する意識に関わる設問			協力意向に関する設問
		次世代に引き継ぎたい緑	市内に増えてほしい緑	重要視する立川市の取組	緑豊かなまちづくりのために自身ができること
上位3項目の 単純集計の	1	公園の緑	身近な公園の緑	自然環境として貴重な樹木や樹林の保全	庭やベランダで緑を育てる
	2	玉川上水と分水	道路の緑	河川環境や、玉川上水・分水の水辺の保全	市民農園の利用、市内で作られる野菜の購入などを通じて農地保全に協力する
	3	多摩川の水辺環境	商業地の緑	道路の緑化と緑の適切な維持管理	「緑の基金」に協力する
下位3項目の 単純集計の	3	武蔵野の雑木林	住宅地の緑	農地や屋敷林の保全	近所の人と協力して地域ぐるみの緑化を進める
	2	農地や屋敷林・社寺林	河川、水路などの水辺の緑	新しい公園の整備	花や緑に関するイベント、講習会に参加する
	1	住宅地の緑	農地の緑	緑に関する市民、事業者の普及啓発	ブロック塀などを生垣に替える

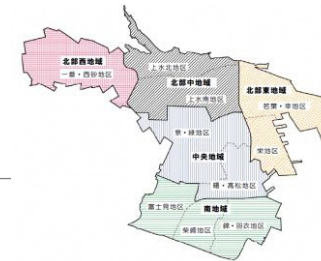
6 まとめ



緑の種類に着目したまとめ

現行計画の対象区分	緑の種類	緑の豊かさ・増減に対する市民意識	今後の取組に対するニーズ・課題
「まもる」 水や緑	樹林地の緑	・多いと感じている ・一方で減少も実感	・保全に対するニーズは高い ・保全活動への協力に一定のニーズがある
	水辺の緑	・多いと感じている	・保全のニーズが非常に高く、市の貴重な緑の資源の一つとし認識されている
	農地、屋敷林・社寺林の緑	・北部の地域で多いと感じている ・一方で減少も実感	・保全は必ずしも重視されていない ・一方で、市民農園の利用や野菜購入には高い関心があることから、利用価値は認識 ・このギャップを埋めていくことが必要
「ふやす」 緑	公園の緑	・多いと感じており、身近な公園の緑は今後増えてほしい緑の上位に位置 ・世代によって利用状況や管理活動への協力意向に差	・新規整備に対するニーズは低いことから、公園の量は市民のニーズをある程度満たされていると考えられる ・身近な公園の不満要因となっている遊具や休憩場所の充実など既存の公園の改良や、利用中心の子育て世代の管理運営への参画は今後の課題
	道路、公共施設の緑	・今後増えてほしい緑の上位に位置	・公共空間の緑化、緑の適切な維持管理に対する市民の期待は、中央地域をはじめ、非常に高く、まちの魅力となる緑を創出、育成が重要
	商業地（企業地）の緑	・緑は少ないと感じており、今後増えてほしい緑の上位に位置	・緑は増えてほしいが、民有地（企業地）より公共空間（道路、公共施設）の緑化が期待されている
	住宅地の緑	・緑は少ないと感じており、今後増えてほしい緑の一つ	・緑は増えてほしいと思われているが、緑化支援策に対するニーズは低い ・一方で、自宅でできる花や緑の育成に高い関心があり、花や緑に親しめる暮らしが望まれている

地域に着目したまとめ



	地域の特徴	現状認識	重要視されている取組
北部西地域	五日市街道のケヤキ並木、その周辺の屋敷林、農地などの緑が特徴の地域	- 緑は多いと感じられている - 樹林地などの自然の緑や農地の減少を実感	玉川上水と分水、その周辺の樹林地などの保全、継承
北部中地域	玉川上水とその周辺の樹林地、農地が特徴の地域	- 緑はやや多いと感じられている - 農地の減少を実感している	玉川上水と分水を中心とした水辺の緑や貴重な樹木・樹林の保全
北部東地域	農地、屋敷林が多いことが特徴の地域	- 緑は多いと感じられている - 農地の減少を実感	- 玉川上水と分水、その周辺の樹林地などの保全、継承 - 公園における緑の創出、公園の改善
中央地域	- J R 立川駅に近い商業・業務地、住宅地を中心とする地域 - 西側に昭和記念公園が立地	緑そのものは少ないと感じられている	商業地や道路、公園、公共施設における緑の創出
南地域	市内でも比較的大きな公園（立川公園、富士見公園、諏訪の森公園）や、多摩川、残堀川、根川緑道の水辺環境が充実	身近な公園の緑や水辺の緑が豊かだと感じられている	立川崖線、多摩川、残堀川周辺の自然の緑や水辺の保全・継承

全体のまとめ ～市民意識から見た課題～

骨格となる水や緑の保全 【特に北部3地域と南地域】

- ・ 現行計画において骨格をつくる水や緑に位置付けられている自然環境として重要な樹林地、立川崖線の緑、多摩川や玉川上水の水辺の緑の重要性が認識されており、引き続き保全に努めていくことが重要

最も身近な緑の空間である「公園」のレベルアップ 【市全域】

- ・ 公園そのものの新規整備は重視度が比較的低く、既存の公園の再整備・改修に力点を置いていくことが必要
- ・ 身近な公園は、回答者の約1/3が月1回以上利用しているものの、単なる通過にとどまっている回答者が多く、再整備・改修に向けて足を止めてもらえるような魅力・個性をつくっていくことが重要
- ・ 身近な公園は、子育て世代の遊びの場や、高齢者の散歩などに利用されているものの、遊具や休憩場所が少ないことが不満要因に挙がっており、利用者ニーズをふまえた施設整備が必要

全体のまとめ ～市民意識から見た課題～

公共空間（道路・公共施設）の緑化 【特に中央地域・南地域】

- ・ 民有地（特に商業地）に緑が少ないと感じられている一方で、緑化に関しては公共空間（道路、公共施設）において緑を増やしていくことが求められている
- ・ 公共空間（道路、公共施設）で緑化可能な余地を精査し、緑化に努めていくと同時に、民有地の半公共空間（公共空間から見え、連なることによってまち並みを形成する部分）に対する市民、事業者の緑化意識を醸成していくことも必要

市民が緑に求める役割をふまえた質の向上と身近な緑の価値の共有 【市全域】

- ・ 緑の役割として、憩いの場の提供、環境、防災・減災の側面が期待されており、これらの観点から緑の質の向上を検討していくことが重要
- ・ その一方で、立川崖線の緑、玉川上水などの保全ニーズは高いものの、歴史・文化を継承する存在としての緑の役割は期待されていないといったギャップも生じており、身近な緑の価値を市民と共有していくことも重要
- ・ 特に農地に関しては、市民農園への参加や、地産地消といった農地活用のニーズは高いが、農地保全の取組に対する重視度は低いというギャップが生じており、農地保全に対する関心を高めていくことが重要